

高橋 実 (たかはしみのる)

1940年生まれ。出身地は新潟県刈羽村郡上小国村樽沢。
日本の郷土史家、小説家。
新潟県の地方文化人として、新潟県民俗会常任理事、『十日町市史』調査員や県立新潟上司
短期大学非常勤講師を歴任する。

略歴

1963年 新潟大学教育学部卒業
在学中から「北陸雪譜」の著者、鈴木牧之を研究
1964年 牧之を題材とした「雪残る村」(『文学北都』)で第52回芥川賞候補。新潟県内の
高校教諭を長年務めた。
2002年 定年退社。執筆アバンギャーとしてあかつき印刷株式会社に入社。「小国文化フオ
ーラム」を立ち上げる
2007年 大河ドラマ「天地人」放映に際して「小国よつていがん会」を結成し、事務局長
に就任
2010年 NHKラジオ新潟「朝の随想」に出演。小国観光協会よつていがんかい八足事務
局長に就任

役職

全国木喰研究会事務局長
小国観光協会よつていがんかい事務局長
長岡民話の会顧問 など

主な著書

『星残る村』(第一小説) 新潟日報事業者 1974
『紙の匂い』(第二小説) 越書房 1981
『座右の鈴木牧之』雑草山版 2007
『越後山壁の語りとか言』雑草出版 2007
『木喰仏を巡る旅』新潟日報事業社 2011
『雪の山里に住み継ぐ随筆集』雑草出版 2011
『枝雪弾く』(第四小説) 雑草出版 2015